

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

<エントリーシート>	部門	学校名・氏名
※事務局記入欄	校内研修部門	愛知県豊川市立国府小学校
No. : C - 15	活動名	
	ペア研究制度で教師力向上 - メンター制度の課題を乗り越えて -	

課題の設定： ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

中教審答申（平成 27 年 12 月 21 日）の「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」という資料で、全教職員がそれぞれのキャリアステージで、自己を成長させていくことが示された。それに基づいて、どのように校内研修を組み立てていくべきか、職員にアンケートを取った。職員全体で優先的に取り組むべき研修と個別のニーズに対応する研修の 2 つに分けられた。そこで昨年度、個別のニーズに対応する研修として若手教員向けにメンター制度を取り入れた。1 年間実施した結果、2 つの課題が出された。
 ① 若手だけでなく、ミドルリーダー世代やベテラン世代からも参加したいという声があがった。
 ② 活動の時間が確保できず、活発に取り組めたペアとそうでないペアができてしまった。

方針・計画： ※課題を解決するために仮説を立てて、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

メンター制度導入 2 年目に当たり、上記の課題を解決するために、以下の方針を立て、活動を計画した。
 方針：さらに多様なニーズに対応し、自分の学びたいことを十分に学べるような仕組みを作る。
 ① 多岐に渡る個別のニーズに対応するために、メンター制度を「ペア研究制度」に改めた（資料 1、2）。
 ② 研修の時間を確保するために、月に 1 度「ペア研究タイム」を設け、年間行事予定の中に位置づけた。

活動内容： ※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

○以下は、行われた活動の例である。
 ・授業づくりの段階からペアと一緒に教材研究を行い、教育論文にまとめるところまで共に研究を行った。
 ・週に 1 度、授業を参観して協議会をもった。・ベテランがペアの学級に飛び込みで師範授業を行った。
 ○ペア研究タイムの前には、研修主任が話題提供をし、活動を一言感想にまとめてもらった（資料 3）。

活動の成果： ※課題や目標に対し、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

- 参加者のアンケート（5 段階評価）

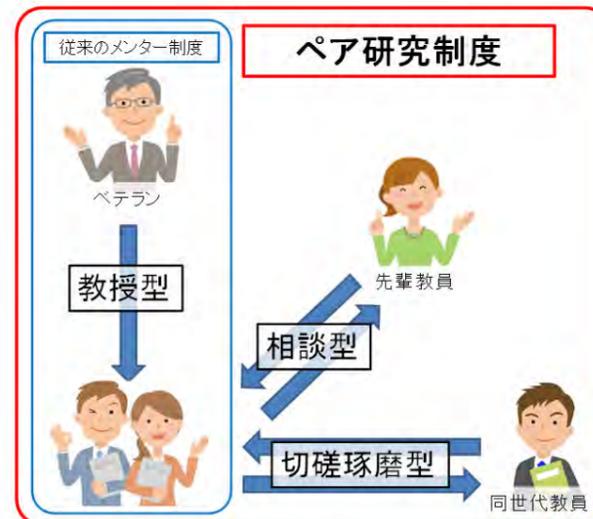
	平成 29 年度	平成 30 年度
本制度は、教師力の向上に役に立つと考えますか。	(平均 4.46)	(平均 4.56)
- ペア研究制度に改めることにより、参加者が 11 人（1 年目）から 18 人（2 年目）に増え、前年度比 164%となった。また、参加者の年代構成は（資料 4）の通りである。参加者の増加や様々な年代の方が参加できるようになることで、研修全体が活性化した（資料 5）。
- 参加者の声
 - ・継続して一人の先生の授業を見ることで、その先生がどんなことを考え、どんな手立てを打ってきたか、そして子どもがどう変わってきたかを改めて実感することができました。私も大変勉強させていただきました。（校長）
 - ・ペア研究制度があることで、気軽に質問したり、相談したりすることができました。（20 代）
 - ・Q-U についてペアの先生（20 代）から研修講師に聞けなかったことを教えてもらいました。Q-U を上手に活用してよりよい学級集団にしていければと思います。（30 代）

アピールポイント（アイデアや工夫）： ※3~5 つ程度の箇条書きしてください

- ペア研究の形をとることで、従来の教授型の活動から相談型や切磋琢磨型などの多様な活動が生まれた。
- ペア研究タイムを 15 分と設定し、年間計画に位置付けることで無理なく、安定的に研修を行うことができた。
- ペア研究制度で教員人生のメンターと出会い、異動した後も継続的に活動するペアが生まれた。

<写真、図表添付欄>

資料 1：ペア研究制度の概要



資料 2：ペア研究制度の説明会資料

「いい授業がしたい」、「いいクラスを創りたい」
 教員なら誰もが思っていることです。
 ところが、現実には
 「次の日の授業の準備」
 「保護者対応」「校務分掌」
 「行事の計画」...と
 日常の業務は山のように、次々と迫ってきます。
 しかし、解決方法はあるのです。
 「有益な情報は、
 人が持っています」
 それが、このペア研究制度の肝です。
 ベテランの先生と
 ちょっとだけ先輩の先生と
 同世代の先生と
 自分のスタイルに合った仕方です！
 学年を越えて情報交換し、切磋琢磨する環境で、
 より高みへ！

資料 3：報告用紙と提供した話題例

平成 30 年 7 月 13 日（金）16:30~16:45
 第 2 回目のペア研究タイムとなります。
 夏休みまであと 1 週間です。子どもたちは、ついつい気持ちが高ぶってしまう時期です。
 1 学期の最後に何を語って、休みに突入するか。そんな話題もいかがでしょうか？
 2 学期には、公開授業をされる方も多いかと思います。授業ネタを交換したり、授業を見合ったりというのでもいいかもしれません。
 また、行事も立て続けに行われます。そういった情報交換もいいですね。
 一言感想が書けましたら、川合ロッカーの封筒へお願いします。
 ===== キトリセン =====
 氏名（ ）

話題提供

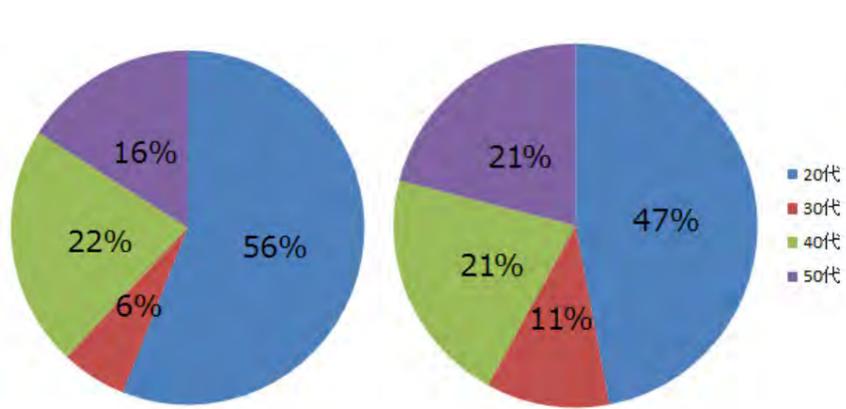
報告用紙

<提示した話題例>

- ・行事指導
- ・学級経営の勘所
- ・仕事術
- ・学習規律の定着法
- ・子どもへの接し方
- ・子どもの心に入る語り
- ・授業の組み立て方
- ・特別支援教育

今月の活動・学び・一言感想

資料 4：参加者の年代構成（左：H29 年度 右：H30 年度）



資料 5：ペア研究の様子

